Greeting

本日はご多忙の中、株式会社ムジカ・チェレステ主催　オペレッタ「Missシカゴ公爵」にご来場下さいまして誠にありがとうございます。
この作品は2017年11月に弊社が日本でプロ初演した作品で、日本ではほとんど知られていないオペレッタです。この作品は、アメリカとヨーロッパの音楽・文化が混じり合うことで、多彩でドラマチックな内容に仕上がっています。ハンガリー生まれのユダヤ人だった作曲家エメリッヒ・カールマーンは、その後第二次世界大戦時ナチス・ドイツの弾圧を避けてアメリカに渡りました。私は、ユダヤ人として迫害を受け、平和への祈りと人種や文化の壁を超えて愛し合う世界を切に願った彼の想いを痛切に感じます。
日本とハンガリーの外交開始150年の節目に、「日・ハンガリー外交関係開設150周年」記念事業として駐日ハンガリー大使館からご認定を受けてこの作品を再演出来ますことに心から感謝すると共に日本にこの作品を広めて参る使命を感じております。カールマーンの愛と平和への願いをよりお客様に感じて頂けるよう、作品に真摯に向き合い、キャスト・スタッフ全員で力を合わせ、ディスカッションや稽古を重ねました。また、元の台本から特に終幕を大幅に変更し、日本人の観客の皆様により分かりやすく共感して頂けるよう、ムジカ・チェレステ演出部のオリジナル台本として取り組みました。
弊社はエンターテインメント・クラシック を商標登録し、クラシック音楽を通して、感動と生の演奏の魅力をお届けしたいと思い活動を続けております。AIやITが脚光を浴び、いかにシステム化するかに視点がおかれがちな現代において、拡張音響を使わず、人間同士が共鳴し合いながら創られる生の舞台芸術は、私達にとても大切な生きる力を与えてくれると信じています。そして、体感くださるお客様と私達芸術家の二人三脚で進化し、さらに輝いて行くことを願って止みません。
本公演にご来場くださいましたお客様、ご尽力くださいました全ての方へ心から御礼申し上げます。これから益々のご声援を何卒よろしくお願い申し上げます。
さあ、これから自由奔放なメアリーとなって皆様の前に現れます！どうぞ楽しみにご鑑賞くださいませ。

株式会社ムジカ・チェレステ
佐藤智恵

Story

序幕(Vorspiel)

1920年代、ヨーロッパの貧しい小国であるシルヴァリアは、油田をアメリカ・シカゴの大富豪、ベンジャミン・ロイドに権利を委ねることとなった。また、王位継承者であるシャーンドル・ボリス王子は、従妹でありモレニア国の王女であるローゼマリー姫と近々結婚することを両王家間で決められていた。王子は気晴らしのために、母の故郷であるブダペストへお忍びで訪れる。ブダペストのレストラン「グリル・アメリケーヌ」の客たちは、王子が愛するチャールダーシュや古き良きウィーンの楽曲よりも、アメリカ由来のチャールストンやジャズを好んでおり、王子と馴染みの楽団長も、演奏を許されているのはジャズだけ、という有様。
そこへメアリー・ロイド嬢が、父親の私設秘書ジョニー・ポンティと共に現れる。メアリーは、「若い婦人の変てこクラブ」の一員としてヨーロッパを旅行中で、その目的はひとつの賭を行うことだった。その賭とは、金で手に入れるのが最も難しいものを手に入れた人が、百万ドルを得る、というもので、メアリーは、王子のお供であるネグレスコ伯爵が変装しているにせの王子とチャールストンを踊りたがる。
副官に扮している王子は、メアリーの要望を王子の意向として断るが、ワルツなら喜んでお相手下さるだろうと言い添える。しかし、メアリーは金にものを言わせて引き下がらず、チャールストンだ、ワルツだ、と曲の取り合いがおきる始末となる。メアリーは近いうちに必ず王子とチャールストンを踊ってみせる、と王子に宣言して店を去っていった。

第1幕(Erster Akt)

王子は大臣たちから、メアリー・ロイドのシルヴァリアへの到着、また彼女が、国民にチャールストンを流行らせようと企んでいることを知り、ただちにそれを全土で禁止させる。
メアリーに同行していたポンティは、メアリーが王家の城を六十億ドルで購入するつもりであることをシルヴァリアの大臣たちに伝える。大臣たちは承諾するが、王子はメアリーの意向を知り激怒する。メアリーは現れた王子がまだ以前ブダペストで会った副官だと思い込んでおり、子供時代の人形をひきあいに出して、王子という存在に対する自身の意見を説くのであった。
時を同じくして、ポンティはシルヴァリアの城を訪れていたローゼマリー姫と偶然出会う。姫は、貧しい王子と政略結婚をしなければならないことを嘆いていた。会社のためにメアリーと結婚することが決まっていたポンティは、自分も事情はまったく同様だと言い、ローゼマリーとの距離を次第に縮めていく。
王子は、メアリーが一新しようとしている"古ぼけたガラクタ"である王家の城が、自分にとっていかに大事な場所であるかを説明する。ついにメアリーも、王子の正体を知ることとなる。王子は城の売却に同意するが、その代金はすべて国民のために用いることを発表するのであった。
王子が最後の閲兵式に臨む間、メアリーはシカゴにいる父親に「城を買った。そこに付属している王子も手に入れるつもり。」と電報を打つ。

第2幕(Zweiter Akt)

メアリーによって買い取られた城は、莫大な費用をかけて最新の設備が施されたが、ヨーロッパの伝統的な良さは失われてしまった。王子は相変わらずメアリーと踊るのを拒んでいたが、メアリーがこっそりワルツを習っているという噂を耳にしていた。メアリーもまた、王子がチャールストンをジャズ・バンドのマスターにひっそりと習いに行っていることを知っていた。王子はチャールストンを全土で禁止させたので、おおっぴらに習いに行くわけにはいかなかったのだ。
シルヴァリアの大臣たちは、王子とメアリーとの結婚に希望を抱く。王子の叔父であるパンクラツ王も同意し、メアリーをシカゴ公爵に叙するのだった。ポンティには、その功績をたたえて世襲伯爵位が授与されることになる。あとは、メアリーの父ロイド氏の同意を得るだけとなった。
ロイド氏が、「若い婦人の変てこクラブ」のメンバーと共にシカゴから到着する。メアリーは父親に不可解な電報について説明するよう迫られる。メアリーは例の賭けのこと、また王子に心ときめいていることをロイド氏に打ち明ける。
ローゼマリー姫とポンティは再会し、ポンティは貧しい王子ではなく裕福な伯爵が求婚したら、と尋ねる。姫は大感激して、この申し出を受け入れる。
ロイド氏はシャーンドル王子を念入りに観察しようとする。王子は、メアリーが自分に恋しているなどとは思ってもいないのである。はじめは王子のことを全くのイエスマンだと思っていたロイド氏も、やがて王子の性格の強さを悟る。
「変てこクラブ」のメンバーは王子を品定めし、例の賭けの優勝はメアリーだという決定に至る。メアリーの自由奔放で素直な魅力に惹かれ始めていた王子は、大臣たちが自分をシカゴのロイド社に売るつもりでいることを知り、またメアリーの電報を入手し、裏交渉に腹を立てる。

終幕(Nachspiel)

「グリル・アメリケーヌ」を訪れたパンクラツ王は、大臣から王子とメアリーの結婚話が失敗に終わりそうであることを聞く。同刻、王子とネグレスコ伯爵も店を訪れ、ローゼマリーとポンティが駆け落ちをしたことを知る。パンクラツ王は甥に気づき、ひとり者となった王子と杯を交わし、メアリーにアプローチするつもりだと告げる。怒った王子はその場を去ってしまう。
そこへ傷心したメアリーが店に入ってくる。パンクラツ王は大臣に自分を紹介するように命じ、メアリーに王位を授ける代わりに求婚を迫る。
お互いに素直になれないメアリーと王子、二人の恋の結末はいかに…

Cast

指揮
安藤由布樹

メアリー・ロイド
【アメリカ企業総帥の娘】
佐藤智恵

シャーンドル・ボリス
【シルヴァリア国王子】
斎木智弥

ポンティ
【ロイド氏の秘書】
持木 悠

ローゼマリー
【モレニア国の王女】
伊藤邦恵

ペローリン
【国務大臣】
川出康平

ボヤツォヴィッチ
【財務大臣】
東 浩市

ネグレスコ伯爵
【王子の副官】
石福敏伸

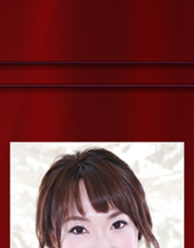
国王
【ボリスの叔父】
山下 直

ロイド氏
【メアリーの父】
藤川鉄馬

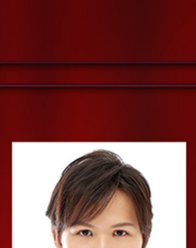
侍従長
吉岡 努

ティハーニ
【グリル・アメリケーヌの支配人】
山下健一

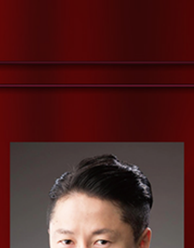
へんてこクラブ
（メアリーの友人たち）



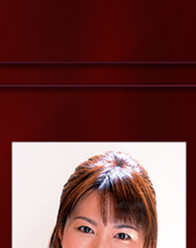
フォード
神谷優香



ロックフェラー
Yurino



アスター
関根かおる



カーネギー
佐藤綾香

ジョブズ
中島晶子

ダンサー
宇田川路代

ダンサー
田中麻衣子

楽団長/ヴァイオリン
長谷川智恵

コントラバス
深町 萌

サックス
石山佳奈

ピアノ
内海清佳

Staff

プロデューサー …… 佐藤智恵
演出 …… ムジカ・チェレステ演出部
演出助手 …… 下條高裕
舞台監督 …… 竹田直央

音響 …… 五十嵐優
照明 …… 針谷あゆみ
ステージング …… ヨシ矢野
振付 …… 宇田川路代

稽古ピアノ …… 田邉安紀恵／樋口めぐみ
衣装 …… 美月逢花
台本協力 …… 吉井 淳
広報デザイン …… マープルデザイン
制作 …… 株式会社ムジカ・チェレステ